

# ここがスゴイ! 本書と類書の違い!!



英検受験に英単熟語集は必要でしょうか? もし必要なら、それはなぜだと思いませんか? 「いやいや、単語集や熟語集など必要ない。過去問をはじめ長文で登場した単語や熟語を覚える方が自然な学習法だ」と考える人もいるかもしれませんが、それは決して効率的ではありませんし、まったくオススメできません。というのは、準1級レベルのすべての単語・熟語触れるためには、膨大な量の英文を読む必要があるからです。単熟語集を使わずに、必要とするすべての単語や熟語に出会うためには、いったい何セットの過去問に目を通せばよいのでしょうか? 10セット? 20セット? いいえ、最低でも50セットは必要になります。そして、それだけ目を通して、一度だけしか出会う単語や熟語が数百個はあり、しかも本番では、過去問とは違う意味で出題されたり、**初出の単語や熟語も出題されるのです!**

有名な言語学者の Paul Nation によると、テキスト中で単語を覚えるためには5回以上出会う必要があるそうです。もしそれを実践しようとするなら、**準1級の問題を数百セットこなさなければならないこと**になります。

でも、本書があれば違います。本書は過去問だけでなく、さまざまなデータに基づいて編集していますから、これさえ覚えておけば、準1級の語彙レベルを軽くクリアできます。

## ❶ こんなに違う英単語集!

英検対策の単語や熟語の参考書はどれでも同じだと思わないでください。同じように過去問を分析して作成されているはずなのに、**それぞれの書籍に**

よって内容も違えば、学習効率もまるで違います。まずは何がそんなに違うのかを説明しましょう。

## ●類書と違う過去問調査～重要単語・熟語が入っている!

本書と類書の違いは、索引を比べるとすぐにわかります。例えば、次の単語を見てください。少し難しい単語もありますが、どれも準1級で出題された単語です。

○…収録あり ×…収録なし

	本書	某単語集	J-8000 順位	PRODIGY 順位
abound	○	×	-	8,015
abstract	○	×	4,186	8,530
activist	○	×	3,369	3,346
acute	○	×	4,596	5,211
agenda	○	×	3,098	4,166
airborne	○	×	7,014	8,276
allot	○	×	-	11,506

\* 「某単語集」とは英検準1級対策の単語集としていちばん売れている書籍

\* 「J-8000順位」とは、大学英語教育学会 (JACET: The Japan Association of College English Teachers) が日本人大学生が学ぶべきとして選定した8000語の英単語リスト「新JACET8000」における順位。表の数字は使用頻度の順位で、数が小さい方が使用頻度が高い。[-]は8000語レベル以上の単語。

\* 「PRODIGY順位」は、PRODIGY英語研究所の英検向けデータ約1億語を基に作成したWord Listにおける順位で、数が小さい方が使用頻度が高い。

上の単語は本書にはエントリーされていますが、準1級対策の単語集でいちばん売れている書籍には掲載されていません。これらは、**2級には登場せず、準1級の過去問に出現した単語**です。例えば、aboundやacuteは大問1の短文空所補充問題の正解の選択肢として登場していますし、abstractやallotの派生語であるabstractlyやallotmentは誤答の選択肢として登場しています。また、agendaは高校の教科書にも登場していますし、an

environmental **activist**「環境活動家」, **airborne infection**「空気感染」などは、準1級の読解問題に登場している重要な語です。これらは**aから始まる単語のごく一部**なのですが、収録語がずいぶん違うことがわかりただけだと思えます。

このように、「英検の過去問を分析」と謳っているのに、**過去問をカバーできていない書籍はたくさんある**のです。

## ●過去問だけではない、信頼のデータベース

ではなぜ「英検の過去問を分析」と謳っている参考書に、過去問で出題された単語が掲載されていないのでしょうか。それは、書籍が発売された後も、**新出の単語や熟語が出題されている**からです。別の言い方をすると、過去問だけを完璧に学習しても、今後の試験に出題されるすべての単語や熟語をカバーできるわけではありません。もちろん、準1級はCEFRのB2～C1と決まっていますから、たとえ過去に出題されていなくても、そのレベルの単語や熟語を覚えればよいはずで、ところが多い参考書が、それらをカバーしていないのです。

学習者にとっては過去よりも**今後の英検**に何が出題されるかが一番重要なことです。新しい教材を提供するために、本書では次のデータを使用しました。

- ① 英検の過去問や英検対策の参考書
- ② 中学校および高等学校の英語検定教科書
- ③ CEFRに基づいた各種Word ListやJACET8000のリスト
- ④ Time, Newsweekなどの英米の新聞雑誌, 映画・ドラマのスク립ト, 書籍などPRODIGY英語研究所の約1億語のデータ

当然のことながら、①の英検の過去問はもっとも重視しました。しかし、あまり古い問題は内容的に時代とずれてしまうので、特に**形式の変更があった2016年以降の過去問**を重視し、基本的にはその頻度に基づいて配列しています。

②の検定教科書は、学校英語と英検の橋渡しができるよう使いました。ま

た、日本英語検定協会によると、準1級は「大学中級程度」と位置づけられていますから、高校英語と標準的な大学入試レベルは取りこぼしがないようにしています。

③について、準1級はCEFRのB2～C1レベルと想定されています。ただし、Word Listは複数あり、単語によっては2レベル以上の差があるので、その利用には細心の注意を払いました。

## ●〈まだ試験に出ていない単語〉は覚えなくてもいい？

またaで始まる次の単語をご覧ください。

abolish	「～を廃止する」
absurd	「ばかげた」
accountant	「会計士」

これらは大学入試でも必須の単語ですから、知っているという方も多いはずですが、けれども**2016年以降の2級、準1級には一度も出現していません**。これらの単語のCEFRレベルやWord List上の順位は下の表のようになります。

○…収録あり ×…収録なし

	本書	某 単語集	CEFR-J	EVP CEFR	J-8000 順位	PRODIGY 順位
abolish	○	×	B2	B2	3,624	4,479
absurd	○	×	B2	B2	2,177	5,656
accountant	○	×	B1	B1	6,581	6,188

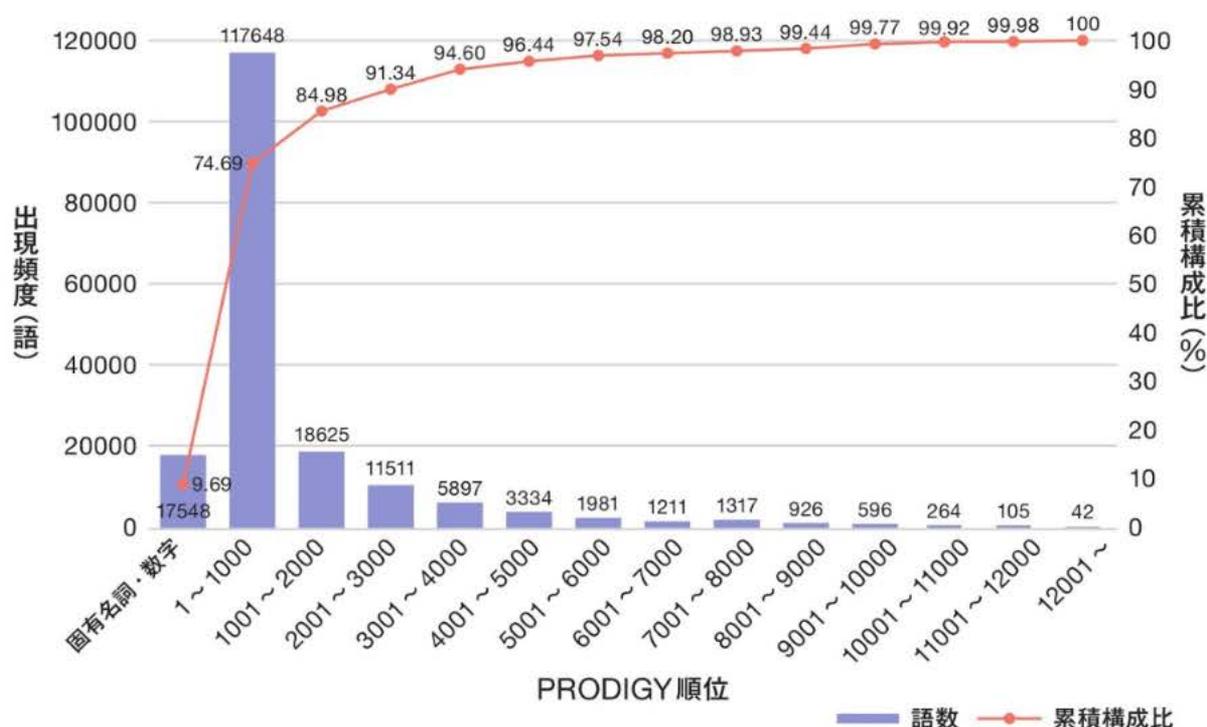
\* CEFR-J：日本の英語教育での利用を目的に構築された、新しい英語能力の到達度指標CEFR-Jにおけるレベル(<https://www.cefr-j.org/>)

\* EVP CEFR：ケンブリッジ大学などが作成したThe English Vocabulary ProfileのCEFRのレベル。(<https://www.englishprofile.org/>)

これを見ると、上の単語はたとえ準1級の過去問に登場していなくても覚えておくべきだということがわかると思います。本書はこうした今後出題されるであろう単語や熟語もしっかり取り上げていますから安心してください。

## ●英検準1級の語彙レベル

では準1級受験者はどんな単語を覚えておくべきでしょうか。準1級の約18万語を分析し、語彙レベル別に分けたデータをグラフでお示しましょう。



上のグラフの横軸はPRODIGY英語研究所のWord Listの順位で、数字が大きいほど語彙レベルが高いことを示しています。縦軸の「出現頻度」は各レベルに属する語が登場した頻度を示しています。

例えばthe, of, toなどの1～1000位までに含まれる基本語が、全体の18万語のうち、約11万語を占めていることがわかります。反対に、12001位以上の難単語は42語しか登場していないということです。

右の縦軸の折れ線グラフからは、そのレベルまでの合計が全体に占める割合がわかり、例えば「固有名詞・数字」と1～1000位までの語を合わせると全体の約75%であることがわかります。

年度や出題回数によって多少の差はありますが、読解に関しては7,000語レベルの語彙までを知っていれば、98%以上が既知の単語となります。ただし、大問1の短文空所補充問題の選択肢については1万語レベル以上の単語もかなり出題されていますから、過去問には注意すべきです。

## ● 〈試験に出た単語〉は全部覚えなきゃいけないの？



ところで、過去の準1級試験に一度でも出た単語や熟語は全部覚えるべきなのでしょうか。もちろん、知っていればすばらしいですが、ものごとには順番があります。

例えば、downcast「がっかりした」という単語が2021年に誤答の選択肢として登場しました。downとcastでできているので、一見簡単そうに見える単語ですが、この単語はPRODIGY英語研究所のデータでは約29,000位に位置する難単語です。これと同じ頻度の単語には、disrepute, equivocate, interstitialなどがありますが、どれも準1級の過去問には登場していませんし、今後も正解の選択肢になることはないでしょう。

本書ではこのような単語・熟語はあえて収録していません。まずは本書に掲載されている項目に集中するのが、合格への最短の道です。

## ◆2 ミニマルフレーズ・システム

本書は単語の覚え方も類書とは一線を画し、ミニマルフレーズ・システムを採用しています。minimal (ミニマル) という言葉は「最小限、極めて少ない」という意味で、芸術の世界には、「ミニマリズム」、「ミニマル・アート」と呼ばれる表現様式があります。必要最小限の要素だけを残し、それ以外はできるだけ排除・省略するというスタイルですが、本書の「ミニマルフレーズ」もそれに倣い、最小限の労力で必要な要素を鮮明に覚えられるよう工夫しています。



英単語を覚えるには、その単語の個性をつかむことがとても大切です。発音を間違いやすい単語、語法がやっかいな単語、類義語との区別が難しい単語、複数の意味を持つ多義語と、それぞれ覚えるべきポイントが異なります。

ミニマルフレーズにはそれを反映させ、韻を踏んだフレーズ、語法を意識したフレーズ、類義語との違いがわかるフレーズと、さまざまな個性を持たせています。また、多義語には複数のフレーズを提示し、英検ならではの出題に備えるよう工夫しています。長いものも短いものもありますが、どれもが現代英語のエッセンスを最小限の労力で覚えられるよう配慮したものです。

ミニマルフレーズの特長と覚えるべきポイントがどのようなものか、具体的に見ていきましょう。

## ●語法が自然に身につくミニマルフレーズ!

英単語を使うときには日本語とは異なる点に気をつけなければいけません。例えば、動詞なら自動詞か他動詞か、どんな文型を取るのか、名詞なら可算名詞か不可算名詞か、どんな動詞と結びつくのか、といったことです。

試しに次のフレーズを見てください。ライティングで下のように書いてはいけません。

- |   |                             |                   |
|---|-----------------------------|-------------------|
| ① | ✕ stop her to go abroad     | 「彼女に外国に行くのをやめさせる」 |
| ② | ✕ embark a new project      | 「新しいプロジェクトに乗り出す」  |
| ③ | ✕ claim without an evidence | 「証拠なしに主張する」       |
| ④ | ✕ his behaviors toward me   | 「彼の私に対する振る舞い」     |

上の例のどこが間違っているのか、すぐにわかったでしょうか。間違えやすいポイントなのでしっかり押さえておきましょう。

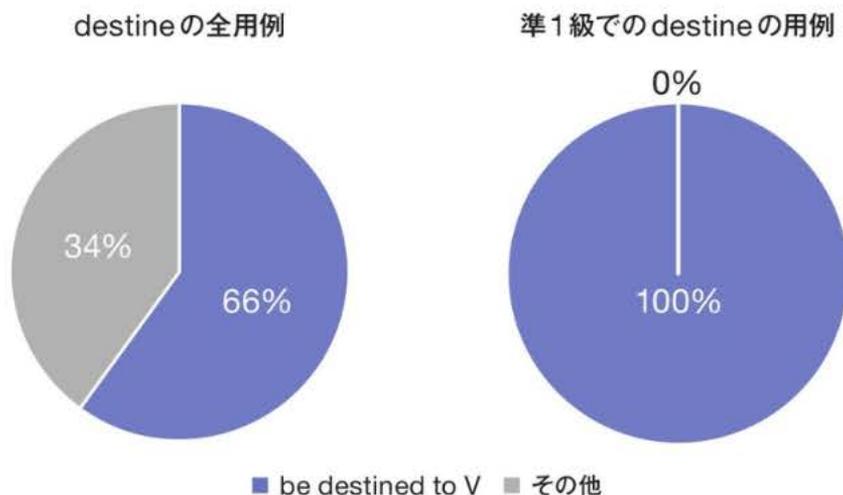
- ① **stop** him **from** smoking 「彼がタバコを吸うのをやめさせる」  
stopという動詞は×stop A to Vの文型をとることはできません。
- ② **embark on** a new journey 「新しい旅に乗り出す」  
embarkはふつう自動詞なので、他動詞としては使いません。
- ③ There is **evidence that** he used it. 「彼がそれを使ったという証拠がある」
- ④ social **behavior** in public spaces 「公共の場での社会的振る舞い」

③evidenceと④behaviorはどちらも普通は不可算名詞で、aやanは付けませんし、複数形にしません。辞書には[U]と[C]の両方が書かれていますが、上のような例では不可算名詞として使うのが一般的ですし、準1級の過去問ではすべて不可算名詞で出題されています。

さて、こうして語法を細かく覚えるのはどうも面倒ですね。そこでおすすめなのは、正解例のように単語を**ミニマルフレーズ**で覚えておくことです。上のミニマルフレーズの中には注意すべき単語の語法がそのまま含まれていることがおわかりいただけだと思います。ミニマルフレーズを丸ごと覚えて、そのまま使えば間違える心配はありません。

## ●信頼のデータリサーチ～意味まで頻度順!

本書でデータを活用したのは単語の頻度だけではありません。単語の使われ方、コロケーション(連語関係)、使われる意味まで徹底的にデータ分析をしています。次のグラフを見てください。



destineという単語はPRODIGY英語研究所の1億語のデータには736例ありますが、その66%がbe destined to Vの形で用いられています。そして、準1級の過去問ではbe destined to V以外の形は出題されていません。というわけで、以下のようなミニマルフレーズ、記事になっています。

1684 ☑☑	<b>He <u>was</u> destined <u>to</u> become famous.</b> [déstin]	彼は有名になる <u>運命にあった</u> 。
☆destineはほぼ常に形容詞のdestinedとして使い、be destined to Vの形が66%を占めるので、準1級ではこの形だけ覚えよう。ちなみにbe destined for A「A〈地位・職業〉になる運命だ、A〈目的地〉行きである」は英検以外なら約33%を占めるが、準1級には出ていない。		

## ●覚えやすい! 音まで気づかったミニマルフレーズ

さらに単語を覚えるときに大切なのは、語法だけではありません。ミニマルフレーズが記憶に定着しやすいように、音声面にも配慮しています。例えば下のフレーズを声に出して読んでみてください。

208 ☑☑ L S	<b>can't afford a Ford</b> [əfɔ:rd]	フォードの車 <u>を買う余裕</u> がない
☆しばしばcanを伴う。「~をする[持つ]余裕がある」という意味。		
◆can afford to V		Vする余裕がある
形?	<b>affordable clothes</b>	形 <u>手頃な価格の服</u>

571 ☑☑ L	<b>a deserted road in the desert</b> [dezɔ:rtid]	砂漠の <u>人影のない</u> 道
☆desert [dezɔ:rt]とはアクセントが異なり、dessert [dizɔ:rt]「デザート」(→p. 181)とはつづり字が違う。		

声に出して読んでみていただくと、すぐに気づきますね? そう、上のフレーズは韻を踏んでいるのです(ダジャレと言った方がわかりやすいでしょうか)。

さらに上のミニマルフレーズの中にはafford「(~を買う)余裕がある」という動詞がしばしばcanやcannotを伴うという特徴や、desert「見捨てる」は

過去分詞を形容詞的に使う用例が多いという特徴も含まれています。ミニマルフレーズは必要な語法がギュッと凝縮され、音声的にも覚えやすいよう工夫されています。まさに最小の努力で英単語を覚えられるのがミニマルフレーズ・システムなのです。

## ●コロケーション（連語関係）も身につくミニマルフレーズ!

ミニマルフレーズの最大の利点のひとつは、周りの簡単な単語とのコロケーション（連語関係）を覚えられることです。まず、名詞と動詞の結びつきを見てみましょう。赤字の名詞を意識して、下の空所に適当な動詞を入れてみてください。

- ⑤ くだらないことに大騒ぎする → (        ) a **fuss** about nothing
- ⑥ 口座に預金をする                    → (        ) a **deposit** in the account
- ⑦ 友人を信頼する                        → (        ) **faith** in friends
- ⑧ 彼女のためにお使いに行く → (        ) **errands** for her

空所になっているのは日本語の「する」「行く」にあたる動詞の部分です。「『する』はdo, 『行く』はgoじゃないの?」と思っている人がいるかもしれませんが、doが日本語の「する」に相当するのは少数にすぎません。〈動詞＋名詞〉の連語関係は決まっていて、上の問題の正解は⑤make, ⑥make, ⑦have, ⑧runです。別解もありますが、まずはここに挙げた表現を覚えてください。英語を自由に話したり書いたりするためには、このような〈動詞＋名詞〉のセットは不可欠です。英単語は“単”語ではなく、ミニマルフレーズで覚えましょう。

## ●語源でホイホイ覚えられる!

英単語を覚えるときに語源を活用したいと思っている人は多いでしょう。例えば、antibiotics「抗生物質」はanti(反, 抗) + bio(生物)という語源を知っていると、覚えやすいでしょう。語源に限らず、**覚えたいことをできるだけ多くのことと結びつける**のが記憶に定着させるコツです。例えば、「ad-, at-という接頭辞がtoの意味だ」というだけではあまりありがたい知識に思えません。けれども、次のようにいくつかのフレーズを並べるとどうでしょうか。

- ⑨ **attach** a file **to** an e-mail → ファイルをEメールに**添付する**
- ⑩ **attract** customers **to** the store → 店に客を**引きつける**
- ⑪ **attribute** success **to** luck → 成功は幸運の**おかげだ**と思う
- ⑫ **adhere to** international standards → 国際基準を**固く守る**

上に挙げたのは at-, ad- で始まる単語が、前置詞 to と結びついたフレーズです。at- や ad- は to の意味を持つので当たり前の結びつきですが、これ以外にもたくさんあるので注意してみてください。さらに以下のような例もあります。

- ⑬ **compete with** him for the gold medal → 金メダルを目指して彼と**競争する**
- ⑭ **comply with** international standards → 国際基準に**従う**
- ⑮ He is **compatible with** his wife. → 彼は妻と**相性がよい**
- ⑯ **contend with** a difficult situation → 難しい状況に**対処する**

上の例は com-, con- で始まる単語です。com-, con- は「一緒に」という意味ですから、with と相性がよいのは当たり前ですね。

## ●音声も最速で身に付く〈トリプルリピート〉方式!

本書の見出し語(1から2348までの番号が振ってある単熟語)の音声は、無料でダウンロードできます。各単熟語の音声は下のように収録されています。

〈英語フレーズ〉 → 〈フレーズ日本語訳〉 → 〈英語フレーズ〉 → 〈英語フレーズ〉

本書は1つのフレーズが3回繰り返される〈トリプルリピート〉方式を採用しています。英語を一度だけ聞いて覚えられる人はほとんどいません。記憶を

作るには同じフレーズを繰り返すことが大切ですが、それができるのがミニマルフレーズの強みです。長い例文だと〈トリプルリピート〉方式にできないのは明らかです。ピンポイントに学習項目を絞ったミニマルフレーズ方式は、最速で英語をマスターする近道なのです。

テキストを目で追いながら、聞こえてくる音に合わせてフレーズを声に出してください(シャドウイングと言います)。漠然と聞き流しているよりも、シャドウイングで声にする方がはるかに短時間で(半分ぐらいの時間で)記憶を作ることができますから、ぜひ試してください。

### 3 英検の出題ポイントがわかる!

さらに本書は英検で問われるポイントまで理解できるシステムになっています。

#### ● 準1級だから出る! 多義語も見逃すな!

準1級の問題では、2級までに出題されてきた単語や熟語でも、それとは別の意味や語法も出題されます。例えば、次の例を見てください。

#### ■ That's a **shame**.

よく耳にするフレーズですが、実は有名な新聞が「それは恥ずかしいことだ」と訳していました。しかし、それは「恥ずかしい」訳だと言ってよいでしょう。shameが「恥」と訳されるのは不可算名詞のときで、a shameとaが付いた時は「残念[遺憾]なこと」と訳します。ですから、上のフレーズは残念な、不運な状況に対して悲しみ、失望などを示し、「それは残念なことだ」という訳になります。

他にも本書では下のような多義語を取り上げています。

<b>book</b> a hotel room	「ホテルの部屋を <b>予約</b> する」
<b>employ</b> a new method	「新しいやり方を <b>使う</b> 」
<b>rule</b> the kingdom	「王国を <b>支配</b> する」
become <b>ever</b> more important	「 <b>一層</b> 重要になる」

どれもなじみのある単語ですが、準1級ではこのような意味で登場しますから、しっかり確認してください。

## ●出題セクションがわかる〈4技能マーカー〉！

準1級の過去問データから傾向を割り出し、どのセクションで出題されやすいかを「4技能マーカー」で表示しています。大問1の選択肢として過去に出題された単語には「語句」、リスニングに登場した単語には「L」、ライティングで必要な単語には「W」、面接で話すときに必要な単語には「S」を付けています。リーディングのマークがないのは、本書の大多数の単語がリーディングで出題されているからです。

間違えやすいポイントを把握する一助に、この「4技能マーカー」を活用してください。(ただし、上記のマークが付いているからといって過剰にその技能だけを意識することはないようにしてください。決して、スピーキング用の単語、リスニング用の単語、ライティング用の単語などというようなものがあるわけではありませんから、本書に登場するすべての単語をリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングで自由に使いこなせるようになってください。)

\* \* \*

本書を手にとってくださったみなさんに最後にお願ひしたいのは、苦行にならないように工夫しながら、英語学習を継続してほしいということです。朝にできなければ夜にやりましょう。今日つまずいたら明日やり直しましょう。黙読したり、音を聞いたり、口にしたり、書いたり、いろいろ試してみましょう。1日の歩みは遅くとも1月で驚くほどの成果が上がることもあります。楽しみながら継続すれば英語力は必ず伸びますから、目標達成まで絶対にやめないでください。

最後になりましたが、本書を出版するにあたってさまざまな方々のお世話になったことをここに記しておきます。とりわけ、生徒のみなさんからは多くの示唆をいただきました。学習上の重要なポイントを生徒のみなさんから直接知ることができたのは、私にとって英語教授上の大きな財産となっています。この場を借りて御礼を申し上げます。

今回もまた、Preston Houser先生には英文を厳しくチェックしていただきました。これまたいつものように、ナレーターのAnnさん、Howardさん、尾身さん、亀田さんには、そのすばらしい声で本書に命を吹き込んでいただきました。編集の柿倉さんには最後まで多くの助言をいただきました。皆様のご尽力のおかげで、最高の英検参考書を上梓できたと確信しています。本書を通して、読者の皆さんの世界が広がってゆくことを切に願っています。